論文の内容の要旨

論文題目

肝細胞癌合併および非合併慢性肝疾患患者の健康関連の生活の質（Health-Related Quality of Life)の解析

指導教員 小俣 政男 教授

東京大学大学院医学系研究科

平成 14 年 4 月入学

医学博士課程 内科学専攻

氏名 近藤 祐嗣

【背景】 健康関連の生活の質（Health-Related Quality of Life、以下 HRQOL）は、近年、慢性肝疾患患者の管理において重視されている。また、肝細胞癌は、近年の診断・治療の進歩により生命予後が改善しているが、治療が奏功しても高率に再発するため、繰り返す治療を要する慢性疾患としての面を持ち合わせるようになっている。本研究では、肝細胞癌合併及び非合併慢性肝疾患患者の HRQOL を調査し、HRQOL に影響する因子を解析することを目的とした。

【方法】 1999 年 4 月から 2001 年 3 月の間に、東京大学医学部付属病院消化器内科にて経皮的局所療法（エタノール注入療法及びラジオ波焼灼療法）の適応と判断され治療が奏功した患者で 2003 年末の時点で生存中の患者 97 人、および対照群として 2004 年

1 月に同科外来を受診した肝細胞癌のない慢性肝疾患患者のうち年齢・性および Child 分類をマッチさせた 97 人、計 194 人を対象とした。2004 年 1 月から 3 月にかけ、日本語版 Short-Form 36 (以下 SF-36)質問票を用いて HRQOL を調査した。群別、再発歴、最近 6 ヶ月の治療歴、背景肝機能等を説明変数とし、SF-36 の各ドメインの得点を目的変数とした多変量解析を行なった。

【結果】 HRQOL は、肝細胞癌の合併群と非合併群の両方において、SF-36 の 8 個のドメインのうち Physical Functioning、Bodily Pain を除く 6 個のドメインが、健康人集団と比較して有意に低い得点を示した。肝細胞癌合併群と非合併群の比較では、8 個のドメインいずれにおいても有意な差は見られなかった。多変量解析の結果、血清アルブミン値が SF-36 各ドメインの得点と最も強い相関を示した。肝細胞癌合併の有無は HRQOL にほとんど影響しなかった。

【結論】 経皮的局所療法が奏功し、3-5 年生存している肝細胞癌患者集団の HRQOL は、肝細胞癌のない慢性肝疾患患者集団と比較してよく保たれていた。HRQOL は、肝細胞癌の有無よりも、背景肝機能に強く依存した。血清アルブミン値は、客観的かつ測定が容易であり、臨床における患者の HRQOL の予測に有用と考えられた。肝細胞癌の治療において、背景肝機能を可能な限り温存することが、HRQOL の維持に重要であることが示唆された。